

- 一般河川、農業用水、既設ダム、砂防堰堤など、現在利用されていない水のエネルギーを有効利用する再生可能エネルギー事業です。
- 水が流れる位置エネルギーを利用し、水車を回して発電するため、発電時にCO₂を排出しません。
- 風や日射など一時的な天候変化の影響を受けにくいと、昼夜を通して安定した電力の供給が可能です。

◆ 取組概要

取組背景

■ 日本政府のエネルギー基本方針

日本政府も「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と表明。第7次エネルギー基本計画の2040年度のエネルギー需給の見通しで、再生可能エネルギーは全発電量の40～50%（内、水力8～10%）と2023年度に比べて2倍以上の増となっている。

■ 脱炭素社会への貢献

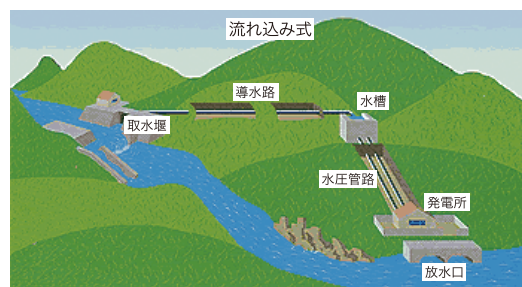
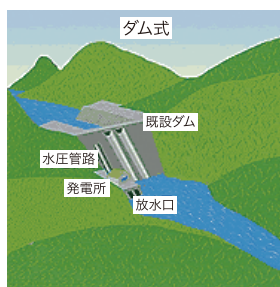
当社が事業で排出するCO₂を相殺できるだけの再生可能エネルギーを世の中に供給することで、エコファーストの約束で掲げた「2050年カーボンニュートラル」を目指す。

事業概要

- 当社が事業主体となり、小水力発電所を新たに開発、建設、運営します。
- 発電所の開発、建設、運営に当たっては地元企業やパートナー企業と協業します。
- 固定価格買取制度やオフサイトPPA等により再エネ由来の電気を販売します。
- 長期にわたり地元根付いた発電所を運営していく中で、発電事業だけではなく、地域が抱える課題をまちづくりを通して解決していきます。

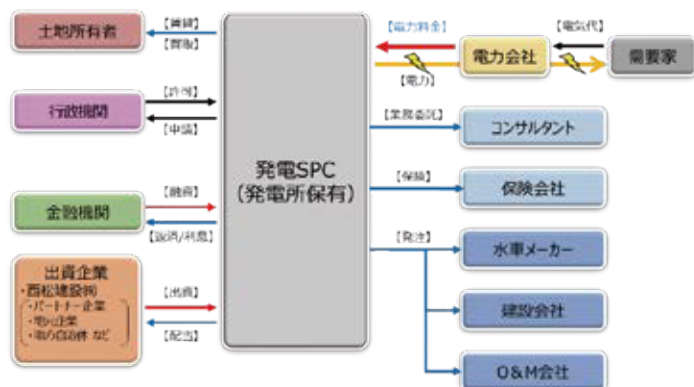
◆ 取組方針

- 発電設備が設置されていない既設のダムを利用するダム式、一般河川や水路から直接取水する流れ込み式をターゲットにしています。
- 1か所当たりの発電規模は200kW程度から1,000kW程度を目安に取り組みます。



出典：資源エネルギー庁ホームページ

◆ 事業スキーム(例)



◆ イメージ図

